



シーズン時のマーケットの様子。これがオフになると空になってしまう。

任地エウア島の農作物

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

任地エウア島の農作物事情についてご紹介します。約 5,000 人が住む島にマーケットは 1 店舗のみで、その他は個人が庭先で販売する野菜やイモ類、輸入果物はファレコロア（日本で言うコンビニ）で購入が可能です。

赴任直後から日曜を除いて、私は毎日マーケットに通うようにしています。

価格と種類を記録し、通年の野菜動向を知ることが目的です。このマーケット

は農家から買い取って販売するのではなく、農家や各家庭から持ち寄られた農作物を管理費としてコミッションを取り、販売するシステムです。野菜や果物の販売価格は平均 150 円、日本とさほど変わりませんが、質や量に満足できると言い難い時もあります。イモ類はトン



お気に入りの甘くて美味しいパイナップルの写真。

ガの人々の主食となるので、種類の変動はあっても常時並んでいます。野菜は年末から3ヶ月程度はサイクロンシーズンで雨季となり、栽培に適さず陳列も1、2種類と限られてしまいます。また、低カロリーとなる野菜は高価で人々の満腹中枢を満たすことが難しく、購入の優先順位が下がるのも事実です。

しかし、天候や所得を理由に野菜摂取不足を訴えるだけでは何も変わりません。ここでの追い風は、トンガの人々の大半は、自身の畑を持っており、仕事終わりや土曜日に畑に行っては農作業をすることです。晴れの日は勿論、作物が駄目になる前に収穫してしまうとのことから、サイクロン前や天候が乱れると分かる直前にも畑に向かう傾向にあります。このように農業が身近にあるトンガの人々ですし、私たちの調査結果（対象：島内女性122名）では、約100%で、野菜栽培をしたいと前向きな回答を得ており、女性たちの意欲も感じます。

配属先で育てた苗木も各コミュニティに順次アナウンスをしながら、配布を開始しています。赴いてくれた方々から「ありがとう」と感謝され、人々の生活に根付きながら、誰かのために働くことの意味を日々教えてもらっています。発育結果を確認するフォローアップ巡回の結果はどうか、今からドキドキです。



トマトを陳列するおばちゃん
とハイ・チーズ！
毎日通うと自然と顔を覚えて挨拶
をしてくれるようになるのが
嬉しいですね。